

9/17 朝日

安保法案反対 座り込み3日目

刻々と近づく安全保障関連法案採決の時。JR福井駅東側広場での座り込み行動の16日、参加者は「民主主義を守りたい」と語った。

午後3時10分 「戦争立法に反対します」と書かれた紙を持つて立つ女性がいた。一言もいふこと口に説かれて女性は戸惑い、遠慮し、意を決したようにマイクを握った。

「私は33歳です。戦争を知らずに生まれて育ちました。でも『戦争の遺産』としてここで暮らしてこます。戦争の悲惨さ、恐ろしさ、残酷さ、悲しさを若い人に少しでも考えてもらいたい」と来ました」

自身を「戦争の遺産」と表現した理由を取材した。

在日コリアン3世の女。女性によると、戦前に祖父が、日本本の植民地にされてまともに暮らせなくなった朝鮮半島から、職を求めて来日した。1950年の朝鮮戦争で帰国の機会をますます奪われて、日本で亡くなつた。「戦争がなければ私は日本で生まれていなかつたかもしない。私が日本で生まれたこと自体が戦争を語るものです」それが戦争の遺産の意味だった。

「私は日本が好きだし、るるさん」と感じて、「とも語つた。その「るるさん」は在日コリアンへの残酷さをむき出しにしている。例えば、京都朝鮮第

一初級学校へのベイビースピーチ事件。女性はニュースで知り、「ひいじて、ただ」と生まれないといふことなどが許されないの」と思った。カッターの刃入り封筒が職場に送られてきたこともある。

「『やるのやれ』がどんどんおかしな方向に向かっている」と感じます。その延長線上に安保法案が出てきた。止めたい。でも私には選挙権がない」

午後3時49分 元小学校教諭の南部美弥子さん(67)は「自衛隊にいる人も私たちの教え子です。その子どもが戦場に行くのは絶対に反対です」。

午後4時4分 鮎江市の中林均さん(66)は、安倍首相の「積極的平和主義」の意味を問い合わせた。

午後4時36分 福井市の荒川勝巳さん(64)が「広報(後方)

支援やめよ」と書いたNHK批判のプラカードを掲げた。批判は全マスコミくも向けられた。「報道の意義をどう堅持するのかが問われている」

午後4時51分 鮎江市の元郵便局員高島文明さん(75)が、「沈黙と無関心の罪」というマーティン・ルーサー・キング牧師の言葉を紹介した。

午後4時54分 元友さん(32)は「アメリカの戦争に日本がかり出される法律です。何としても止めたい。日本の民主主義を守りたい」。

午後5時56分 雨がぱらついてきた。予定の午後6時より少し前に座り込み行動は切りあげられた。

(下地毅)



安保法案の危険性を訴える座り込み行動(3日目の参加者)=JR福井駅東側の広場